



マリンバイオ同好会 活動報告 平成22年度No. 4

～2010年11月～

☆海洋棧橋における魚類相調査の様子



【カゴで採集されたイシガニ】

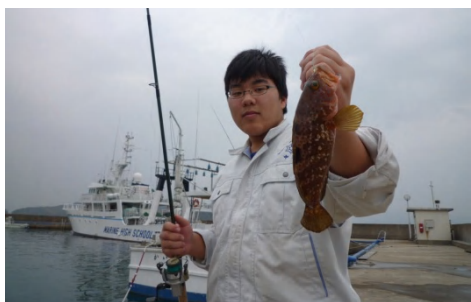


【流れ藻の中にいたイソスジエビ】



【外国からの漂流物】

夏場あまり見られなかった流れ藻が、小さいですが流れ着くようになりました。また、11月に入ってからソデイカ(タルイカ)を見るようになりました。

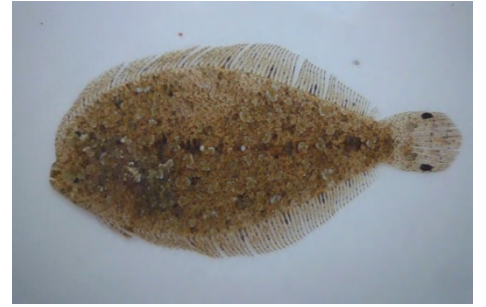


【11月14日 海洋棧橋釣り調査】



時々、釣りによる調査も行っています。今回はワームを使った釣りで、ロック・フィッシュを中心に釣果がありました。釣れたカサゴの中には産卵期ということもあり、お腹の大きな個体もありました。今年は水温が高かったため、カゴや釣りで多くのキジハタを採取しました。また、カゴにはまれにクエ(T.L20～25cmが入りました。

ランダムに行っている釣り調査も、いずれ釣法や、場所、時間帯などを設定し、定期的に行うことで、季節ごとに釣れる魚種を調べていきたいと思っています。(※本校桟橋は釣り禁止です)



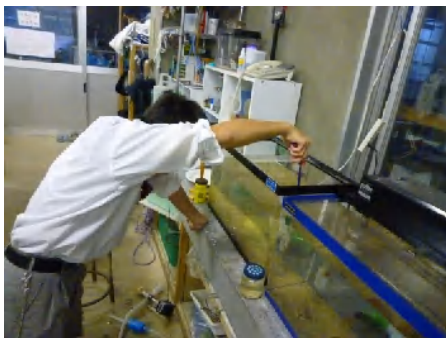
【11月21日 海洋桟橋釣り・投網調査】

21日の釣り調査では、延べ竿とオキアミで、エサ釣りをを行い、フグ類やベラ類、メジナなどを釣りあげることができました。右上の写真は投網で採取したダルマガレイです。調査開始以来、初採取です。

下の写真はムラサキダコです。たまに流れ着きます。



☆ 水槽管理の様子



【きれいになりました】



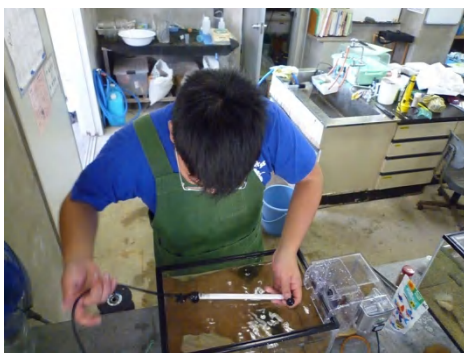
～2010年12月～

☆水槽管理の様子



【H21ランチュウ水槽掃除】

金魚はヒレが傷つき(折れ)やすかったり、脱鱗して見栄えが悪くなるため、水槽を洗う時は水ごとすくってプラ舟にかわし、それから水槽を洗っています。産卵・孵化から飼育を始めたランチュウも、ずいぶん大きくなりました。この子たちの親は、残念ながら今年4月に起こったヒータートラブルで死んでしまいました。残ったランチュウを大切に育てていかなければなりません。



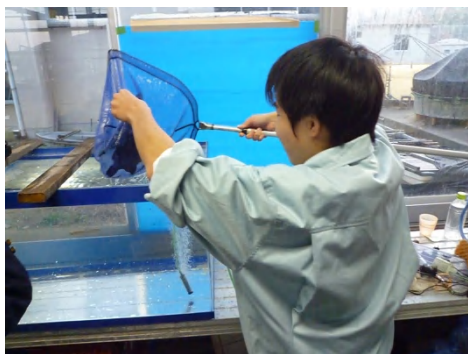
【プラティの水槽掃除】

☆熱帯魚漂着

12月8日、海洋栈橋を力なく漂っているアミモンガラを採取しました。対馬暖流に乗ってやって来たのですが、南の海に帰れなくなってしまったのです。毎年見られる光景ですが、今年は多くのアミモンガラが流れ着きました。



【簡単に捕まるアミモンガラ】



【収容】

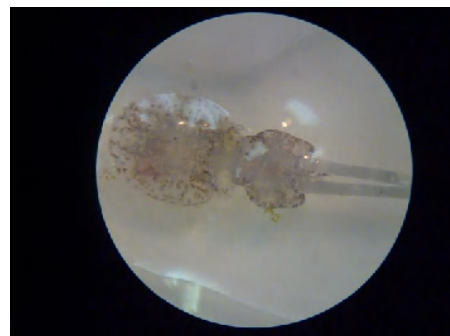
栽培漁業実習棟に持ち帰り、ヒーターをセットした水槽に収容しました。瀕死であったため、持ち直すかどうか分からない状況です。

☆淡水浴

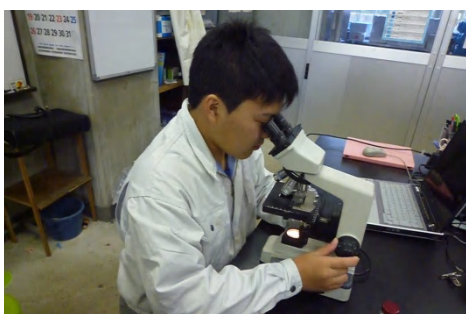
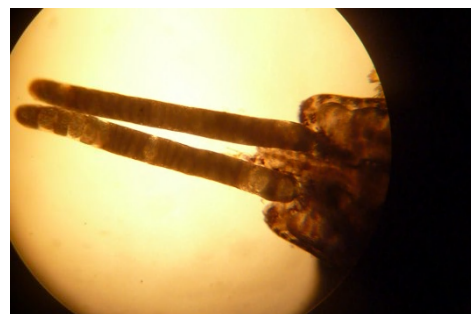
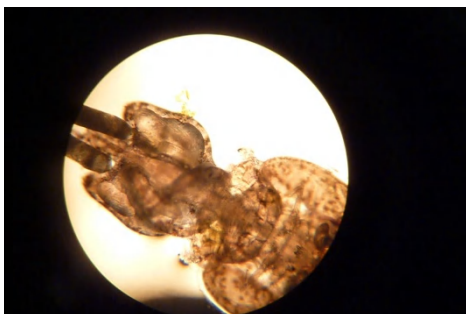
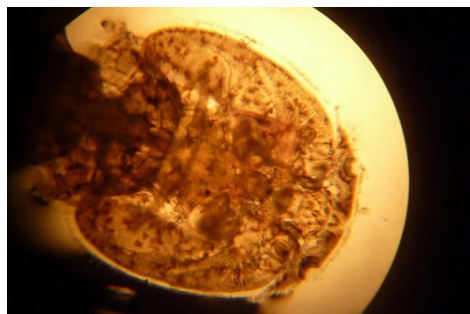
持ち帰り、水槽に収容した直後、一部のアミモンガラにハダムシが寄生しているのを発見！寄生していたのは養殖場で有名なカリグス(シュード・カリグス症)でした。翌日、魚体は弱っていましたが、淡水浴を行いました。



【淡水浴】



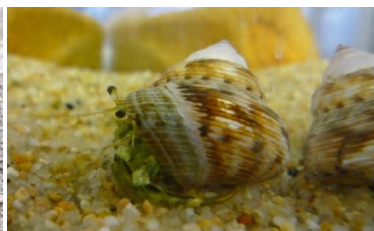
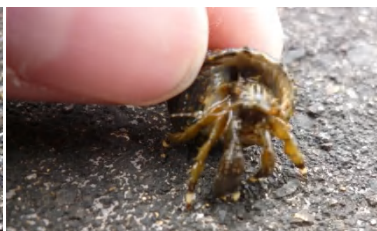
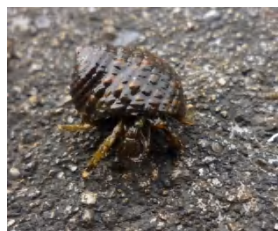
【死んで剥がれたカリゲス】



【顕微鏡観察】

☆飼育生物紹介

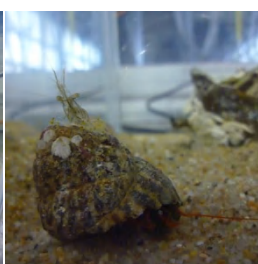
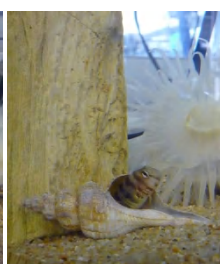
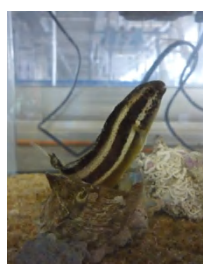
4月5日に海洋栈橋スロープで採取したホンヤドカリです。現在カセットフィルター式40cm水槽で飼育しています。脱皮や貝殻の交換を繰り返し、体色がきれいな緑色になりました。



【4月5日】

【8月31日】

【12月3日】



【ホンヤドカリの同居人達】ホンヤドカリを含め、9種の生き物を収容しています。

Copyright(C) 2010- Kyoto Prefectural Marine High School. All Rights Reserved.

京都府立海洋高等学校 〒626-0074 京都府宮津市字上司 1567-1

TEL0772-25-0331 FAX0772-25-0332

e-mail kaiyou-hs@kyoto-be.ne.jp



☆青いザリガニ計画(愛称:テストロッサ)

与えるエサで、ザリガニの体色を変えることが可能なことはよく知られています。我々にもできるのではないかと、実験をスタートしてみました。エサの入手が簡単なことから、青いザリガニを目指すことにしました。

しかし、事件発生！2010年6月26日、40cm水槽から失踪したのです・・・。



2009年9月19日

～採取～



2010年5月15日

～青いザリガニ計画始動～



2010年6月19日

～少し青くなった～

水槽や棚を動かすなど、飼育していた水槽の周りを搜索したのですが、発見できませんでした・・・。そして失踪から1週間後、飼育水槽付近で発見！元気に威嚇していました。水槽から脱走したことにも驚きましたが、生きているとは思わなかったため、さらに驚きました。脱走対策として飼育水位を下げ、蓋に隙間がないようにしました。しかし、7月16日に2度目の脱走をゆるしてしまい、数日後、スリッパの中に居る所を発見した時にはかなり弱っていました。この後体調が回復せず、8月19日、残念ながら死んでしまいました。

7月17日、「青いザリガニ計画2」を始動、現在2代目は元気にしています。愛称:レイズナー



【12月6日の様子】

☆ 魚類相調査の様子

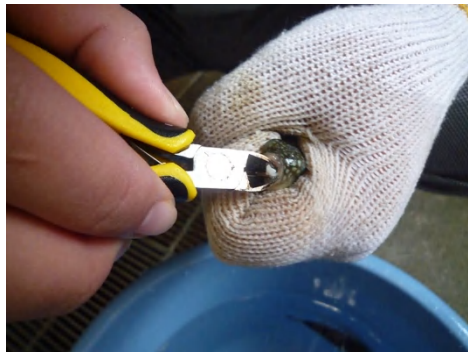


【調査の様子と採集された魚】



☆歯切り

飼育する他の魚を鋭い歯で傷つけないように、混泳水槽のコモンフグ8尾の歯切りを行いました。



【12月19日 歯切りの様子】

☆H22ヒラメの淡水浴(12月22日)

11月3日に1回目の淡水浴を行っていました。この時にはベネデニア(ハダムシの1種)が寄生していました。そこで今回、水温が下がり切る前にハダムシ予防のため、2回目の淡水浴を行うことにしました。





【H22ヒラメ 淡水浴の様子】

今回ハダムシの寄生はありませんでした。安心して冬を越せそうです。ついでに魚体重も量り、平均180.0g／尾でした。5月4日に卵だったヒラメもずいぶん大きく育ったと感じました。2トン水槽に56尾を収容しています。